

# 第6節 美 術

## 第1 指導計画の作成

### 1 指導計画作成の基本的な考え方

- (1) 美術科の目標を押さえる ※目標の(1)(2)の資質・能力が身に付かないと(3)は身に付かない。

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。→**柱書き**

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。→「**知識及び技能**」  
知識 技能

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。→「**思考力、判断力、表現力等**」  
発想や構想・鑑賞 鑑賞 発想や構想

(3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。→「**学びに向かう力、人間性等**」

表現及び鑑賞の活動を通して、目標(1)(2)(3)を相互に関連させながら資質・能力の育成を図る。

- (2) 内容の構成を把握し、育成すべき資質・能力を押さえる

美術科の内容は、「A表現」「B鑑賞」及び「共通事項」で構成される。

「知識」……………「共通事項」

「技能」……………「A表現」(2)の指導事項

「思考力、判断力、表現力等」……………「A表現」(1)及び「B鑑賞」(1)の指導事項

「学びに向かう力、人間性等」……………「A表現」「B鑑賞」及び「共通事項」を指導する中で、一体的、総合的に育てていくもの

目標の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に内容に対応させ、資質・能力を相互に関連させながら育成できるようにする。

- (3) 「共通事項」を適切に位置付ける

「共通事項」は「A表現」及び「B鑑賞」の学習で共通に必要な資質・能力であり、造形的な視点を豊かにするために必要な知識として位置付けられている。「共通事項」のみを題材とするのではなく、「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して身に付けるよう、指導計画に位置付ける。

### 2 指導計画作成の一般的な手順

- (1) 美術科の指導の目標を設定する

学習指導要領に示す美術科の目標及び内容についての的確に把握し、各学校の教育目標との関連を明らかにして、当該年度の自校の実態に即した美術科の指導目標を設定する。

- (2) 各学年の指導の目標を設定する

学習指導要領に示す各学年の目標（「第1学年の目標」「第2学年及び第3学年の目標」）及び内容についての的確に把握し、発達の段階や当該年度の生徒の実態に応じた各学年の指導目標を設定する。

- (3) 各学年の指導内容を検討する

学習指導要領に示す内容構成に照らし、設定した各学年の目標に応じた指導内容を検討する。

- (4) 題材を検討する

採択された教科書の題材を研究し、各学年の指導内容にふさわしい題材を検討する。

- (5) 題材の選定と配列、時間数を想定して、年間指導計画を作成する

題材を選定し、第1学年、第2学年及び第3学年の単位ごとと全ての内容を配列し、他の教育活動と関連させ、年間授業時数（第1学年…45時間、第2、3学年…35時間）の年間指導計画を作成する。

- (6) 題材ごとの指導計画を作成する

年間指導計画に位置付けた各題材について、配当時間に沿った指導計画を作成する。

- (7) 1単位時間の指導計画（学習指導案）を作成する

題材ごとの指導計画に基づいて、1単位時間（50分）の指導過程（導入・展開・整理）を考慮した1単位時間の指導計画（学習指導案）を作成する。

- (8) 指導計画を評価し、改善する

作成した年間指導計画は、実践を基に検討し、問題点を明らかにして改善していく。

### 3 指導計画作成に当たっての留意すべき事項

- (1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた生徒への指導」の視点（解 P123・124）

変化を見分けたり微妙な違いを感じ取ったりすることやイメージをもつことが難しいなど、学習活動を行う際に生じる困難さが異なることに留意し、安易に内容の変更等をせず、生徒の十分な学びが確保できるよう個々の困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫する。また、個別の指導計画を作成し、他の教科と指導方針を共有するなど、個に応じた必要な配慮が大切である。
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点（解 P117・118）

自身の学びや変容を自覚できる場面や対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、また、生徒が考える場面と教師が考える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を図る。特に「深い学び」の鍵となる「造形的な見方・考え方」を、習得・活用・探求という学びの過程の中で働かせることが重要である。
- (3) 「教科等横断的」な視点（総則 P49、解 P4）

美術科の枠だけでなく、教育課程全体を通じて教育目標の実現に向けたねらいの具体化や、他の教科等と関連を図るなどして、学習の基盤となる資質・能力（言語能力など）や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントが重要である。
- (4) 「社会に開かれた教育課程」の視点（解 P28）

身の回りの造形や身近な環境、文化遺産や伝統と文化などのよさや美しさを感じ取り、生徒が自分との関わりの中で生活や社会の中の美術の働きや美術文化について考え、広い視野に立って見方や感じ方を深められるようにする。
- (5) 「道徳教育の充実」の視点（解 P124・125）

美術の創造による豊かな情操は、道徳性の基盤を培うものである。このことを踏まえ道徳教育の全体計画との関連、指導の内容及び時期等に配慮し、両者が相互に効果を高め合うようにする。
- (6) 「〔共通事項〕の指導」の視点（解 P126～130）

各学年の内容の〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、「A 表現」及び「B 鑑賞」において十分な指導を行うようにする。生徒が造形を豊かに捉える多様な視点もてるよう、形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴からイメージを捉えたりできるようにすることが大切である。これらを単に知識の習得と捉えるのではなく、生きて働く力として1年次に身に付けたことが2、3年次へとつながるよう3年間を見通した計画を立てることが必要である。
- (7) 「スケッチの活用」の視点（解 P131・132）

スケッチは見る力や感じ取る力をはじめ、「思考力、判断力、表現力等」を育成するものであり、①対象を捉えて描く、②イメージを具現化するための発想や構想を練る、③伝えたいことを分かりやすくプレゼンテーションするなどの特性を生かしてあらゆる場面で効果的に取り入れ、表現に関する資質・能力を総合的に培うようにすることが大切である。
- (8) 「映像メディアの活用」の視点（解 P132・133）

デジタル機器などの映像メディアは、発想や構想、表現等の各段階において表現の幅を広げ、様々な表現の可能性を引き出すために重要である。そのために、学びの目的を明確にし、効果的に活用できるよう、指導の機会や方法を工夫して積極的に取り入れるようにする。
- (9) 「共同で行う創造活動」の視点（解 P135）

生徒が共同で一つの課題に取り組み、その過程において話し合いを重視し、単なる作業分担ではなく協力して創造活動ができるような機会を、3年間の中で適切な時期を選び、指導計画に位置付けるようにする。
- (10) 「創造性を尊重する態度の形成と知的財産権や肖像権」の視点（解 P136・137）

自己や他者の作品などに表れている創造性を尊重する態度を形成するために、著作権など知的財産権や肖像権について配慮し、美術文化の継承や発展、創造の理解につながるようにする。
- (11) 「事故防止と学習環境の整備を図る」視点（解 P138）

事故防止には、用具、機械等の日常の点検と手入れや保管、用具の安全な使い方と管理などを授業の中で指導し、安全意識をもたせることが大切である。また、材料や薬品類のアレルギーに対する生徒の把握と換気等の配慮、収納棚の倒壊防止など、安全対策に努めることが必要である。

1 指導内容の系統表

※   は、第1学年と第2、3学年との違いを示したもの

学年	A 表現	
	(1) 発想や構想に関する資質・能力 【思考力、判断力、表現力等】	(2) 技能に関する資質・能力 【技能】
小学校第5学年 及び第6学年	<p>ア 造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えること。</p> <p>イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること。</p>	<p>ア 造形遊びをする活動を通して、活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくること。</p> <p>イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。</p>
中学校第1学年	<p>ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に、<u>全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。</u></p> <p>イ 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 構成や装飾の目的や条件などを基に、<u>対象の特徴や用いる場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練ること。</u> (イ) 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、<u>分かりやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ること。</u> (ウ) 使う目的や条件などを基に、使用する者の<u>気持ち</u>、材料などから主題を生み出し、<u>使いやすさや機能と美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ること。</u></p>	<p>ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) <u>材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。</u> (イ) 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表すこと。</p>
中学校第2・3学年	<p>ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、<u>夢、想像や感情などの心の世界</u>などを基に主題を生み出し、<u>単純化や省略、強調、材料の組合せ</u>などを考え、<u>創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。</u></p> <p>イ 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や<u>環境、社会との関わり</u>などから主題を生み出し、<u>美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。</u> (イ) 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、<u>社会との関わり</u>などから主題を生み出し、<u>伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練ること。</u> (ウ) 使う目的や条件などを基に、使用する者の<u>立場、社会との関わり、機知やユーモア</u>などから主題を生み出し、<u>使いやすさや機能と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練ること。</u></p>	<p>ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 材料や用具の<u>特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと。</u> (イ) 材料や用具、<u>表現方法の特性</u>などから制作の順序などを<u>総合的に</u>考えながら、見通しをもって表すこと。</p>

B鑑賞		[共通事項]
(1) 鑑賞に関する資質・能力 【思考力、判断力、表現力等】		(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して指導
ア 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。		ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。 【知識】 イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。 【思考力、判断力、表現力等】
ア 美術作品などの見方や感じ方を <u>広げる</u> 活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を <u>広げる</u> こと。 (イ) 目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を <u>広げる</u> こと。	イ 生活の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を <u>広げる</u> 活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) <u>身の回り</u> にある <u>自然物や人工物の形や色彩、材料</u> などの造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を <u>広げる</u> こと。 (イ) <u>身近な地域や日本及び諸外国の文化遺産</u> などのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を <u>広げる</u> こと。	ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。 【知識】 イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。 【知識】
ア 美術作品などの見方や感じ方を <u>深める</u> 活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、 <u>美意識</u> を高め、見方や感じ方を <u>深める</u> こと。 (イ) 目的や機能との調和のとれた <u>洗練された</u> 美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と <u>創造的な</u> 工夫などについて考えるなどして、 <u>美意識</u> を高め、見方や感じ方を <u>深める</u> こと。	イ 生活や <u>社会の中</u> の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を <u>深める</u> 活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) <u>身近な環境の中に見られる</u> 造形的な美しさなどを感じ取り、 <u>安らぎや自然との共生などの視点から</u> 生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を <u>深める</u> こと。 (イ) <u>日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質</u> などから、 <u>伝統や文化のよさや美しさ</u> を感じ取り <u>愛情を深めるとともに</u> 、 <u>諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き</u> 、 <u>美術を通した国際理解</u> や美術文化の <u>継承と創造</u> について考えるなどして、見方や感じ方を <u>深める</u> こと。	ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。 【知識】 イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。 【知識】

## 2 年間指導計画例

〔第1学年〕（総授業数 45 時間）

小小学校との関連 描描く活動 つつくる活動

学期	題材名（時間）	領域・項目・指導内容			題材について
		A表現	B鑑賞	道徳	
1 学期 （15 時間）	美術の学習を始めよう －オリエンテーション－ 小6 (1時間)		(1)ア		参考作品の鑑賞を通して、自分なりの意味や価値をつくりだすことに興味をもち、これからの美術の学習に対する意欲を高める。
	十人十色！自分色フラッグ －色彩の学習－ 小5 描 (4時間)	(1)ア (2)ア		瓶罫 罫	色の三属性や色の感じを学ぶ。絵の具の混色や筆の使い方を学び表す。自分らしさを色で表して旗をつくる。
	発見！私だけが見つけた 美術室の〇〇 －スケッチの学習－ 小6 描 (2時間)	(1)ア (2)ア			美術室の物を様々な角度から観察し、形や質感、色彩などの特徴に着目しながらスケッチと着色で小さな紙に表す。 【3(7)】
	絵を見比べてみよう －それぞれのよさの鑑賞－ 小5 (2時間)		(1)ア	隣隣	西洋と日本の風景画2点を鑑賞した後、遠近感など表現の工夫を比較鑑賞し見方や感じ方を広げる。次の絵画制作に生かす。
	思い出ショット －心惹かれた場面を描く－ 小6 描 (6時間)	(1)ア (2)ア	(1)ア		思い出の場面を想起し、どこに心惹かれたのかを考え構想を練る。遠近感などの表し方を工夫しながら、様々な描画材を効果的に用いて表す。
2 学期 （20 時間）	森に棲む生き物たちの物語 －ダンボールによる 彫刻表現と写真表現－ 小4 つ (7時間)	(1)ア (2)ア	(1)ア		作家の作品を鑑賞し、表現の意図や造形的な表現の工夫を感じ取る。生き物の物語を想像し、ダンボールでつくる。完成後に作品を用いて物語のイメージを写真に写す。 【3(3)(8)】
	彫って刷って切って刷って －いろいろな版画の学習－ 小5 つ (7時間)	(1)ア (2)ア	(1)ア		「目に見えないもの」をテーマに自分なりの主題を見付ける。版木を彫ったり電動糸鋸で切ったりして、画面構成を工夫し表す。 【3(11)】
	使いたくなる器をつくる －焼き物の制作－ 小6 つ (5時間)	(1)イ (2)ア	(1)ア		使う場面や状況を踏まえ、使いやすさと生活を豊かにするデザインを意識した、実際に使える器をつくる。焼き物の基礎を学ぶ。
	伝統工芸って？ －暮らしに生きる美術－ 小4 (1時間)		(1)イ	我が国の 伝統工芸 の 魅力	日本で古くから引き継がれて来た伝統工芸について主に生活用品をとりあげて、そのよさや美しさに触れ、見方や感じ方を広げる。
3 学期 （10 時間）	どうしてこの色？この形？ －埼玉県立近代美術館の 名作椅子を鑑賞する－ 小4 (1時間)		(1)イ		埼玉県立近代美術館から借りた本物の名作椅子に実際に座り、鑑賞する。小グループでの対話による鑑賞から生活の中の美術の働きについて見方を広げる。 【3(2)(4)】
	願いを文様に込めて －オリジナル文様の 手ぬぐいづくり－ 小5 つ (5時間)	(1)イ (2)ア	(1)ア	隣隣	日本や諸外国の伝統文様を鑑賞し、成り立ちや造形的な工夫を学ぶ。形を工夫して願いや意図のある文様を発想する。願いや意図に合わせて構成も工夫して布に表す。
	新1年生を華やかに迎える －ウェルカムアート チャレンジ－ 小5 描 つ (4時間)	(1)イ (2)ア		よりいっ ぱい学 校生活 の 楽し み	新入生に歓迎の意を伝える校内装飾や、中学校生活の魅力伝える表現の構想を練る。表現手段や技法、材料を選択し、グループでつくる。1年間の学習のまとめを行い、2年生での学習に意欲をもつ。 【3(9)】

・【 】については、「3 指導計画作成に当たっての留意すべき事項」の項目を参照

指導事項及び内容の取扱い	〔共通事項〕例【3(6)】
<ul style="list-style-type: none"> <li>造形的なよさや美しさを感じ取り、友人と発表し合うなどして見方や感じ方を広げる。 鑑1ア(ア)</li> <li>鑑賞のきまりから創造性を尊重する態度を養う。【3(10)】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(ア)作品の色味や明るさ、鮮やかさを捉えること</li> <li>イ(ア)作品の造形的な特徴などを基に、見立てたりして全体のイメージで捉えること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分を見つめ想像したことなどを基に自分らしさを表す色を豊かに発想する。 表1ア(ア)</li> <li>絵の具で意図に応じて工夫して表す。 表2ア(ア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(ウ)色彩が感情にもたらす様々な効果に着目させ、色彩から感じる優しさや楽しさ、寂しさなどを捉えること</li> <li>イ(ア)色彩を心情などと関連付けてイメージで捉えること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさから表現の構想を練る。 表1ア(ア)</li> <li>スケッチと水彩の基礎的な技能を身に付け、意図に応じて工夫して表す。 表2ア(ア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(イ)スケッチする対象に直に触れるなどして、質感を捉えること</li> <li>イ(ア)対象を見る角度により、変わる印象を捉えること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>比較することでそれぞれの造形的なよさや美しさを感じ取り、表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を広げる。 鑑1ア(ア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(オ)2つの作品の立体感や遠近感の表現を捉えること</li> <li>イ(イ)造形的な特徴などを基に、全体のイメージの違いや和風と洋風の違いなどで作品を捉えること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>印象に残った出来事などを基に、主題を生み出し、心豊かに表現する構想を練る。 表1ア(ア)</li> <li>描画材で意図に応じて工夫して表す。 表2ア(ア)</li> <li>作者の表現の意図と工夫を感じ取る。 鑑1ア(ア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(ウ)形や色彩、光などから感じる優しさや楽しさ、寂しさなどを捉えること</li> <li>イ(ア)造形的な特徴などを基に、心情などと関連付けたりして全体のイメージで作品を捉えること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>作者の表現の意図と工夫を感じ取る。 鑑1ア(ア)</li> <li>生き物たちの物語を豊かにイメージする。 表1ア(ア)</li> <li>意図に応じて動勢を工夫して表す。 表2ア(ア)</li> <li>写真での構図のつくり方や撮影方法を工夫する。 表1ア(ア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(オ)動物の体の形や動勢などを捉えること</li> <li>イ(ア)造形的な特徴などを基に見立てたりして全体のイメージで作品を捉えること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>主題を心豊かに表現する構想を練る。 表1ア(ア)</li> <li>彫りから刷りまで見通しをもって表す。 表2ア(ア)(イ)</li> <li>作者の表現の意図と工夫を感じ取る。 鑑1ア(ア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(オ)刷りや彫りで構成の美しさや余白の効果を捉えること</li> <li>イ(ア)見立てたり、心情などと関連付けたりして全体のイメージで作品を捉えること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>使う目的や用途などを基に構想を練る。 表1イ(ウ)</li> <li>成形から加飾まで見通しをもって表す。 表2ア(イ)</li> <li>用途と美しさの調和を感じ取る。 鑑1ア(イ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(イ)陶芸用粘土の性質や質感を捉えること</li> <li>イ(イ)器の造形的な特徴などを基に、作風や様式などの文化的な視点で捉えること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の伝統工芸品のよさや美しさなどを感じ取り美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げる。 鑑1イ(イ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(イ)伝統工芸の材料の性質や質感を捉えること</li> <li>イ(イ)伝統工芸品の造形的な特徴などを基に、作風や様式などの文化的な視点で捉えること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>椅子の形や色彩、材料などの造形的な美しさを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考え、見方や感じ方を広げる。 鑑1イ(ア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(イ)椅子に使用されている材料の性質や質感を捉えること</li> <li>イ(ア)椅子の造形的な特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>分かりやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構成を練る。 表1イ(ア)</li> <li>制作の順序を考え見通しをもって表す。 表2ア(イ)</li> <li>作者の表現の意図と工夫について考える。 鑑1ア(イ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(エ)形や色彩などの組合せによる構成の美しさを捉えること</li> <li>イ(イ)文様の造形的な特徴などを基に、作風や様式などの文化的な視点で作品を捉えること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>装飾の目的や条件などを基に、主題を生み出し構想を練る。伝える相手や内容などから主題を生み出し、構想を練る。 表1イ(ア)(イ)</li> <li>意図に合った材料や用具を選び、工夫して表す。 表2ア(ア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(イ)使用する材料の性質や質感を捉えること</li> <li>イ(ア)造形的な特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えること</li> </ul>

〔第2学年〕（総授業数 35 時間）

小 小学校との関連 描 描く活動 つ つくる活動

学期	題材名（時間）	領域・項目・指導内容			題材について
		A表現	B鑑賞	道徳	
1 学期 （12 時間）	墨の世界を旅しよう ーモノトーンの美しさー 小6 描 （2時間）	(1)ア (2)ア	(1)イ	動心	墨、水、筆の相乗効果による技法から生まれる水墨画の世界を楽しむ。モノトーン表現や余白の美しさを味わい、想像力により色彩を超える魅力について探る。 【3(3)(5)】
	この一瞬をキャッチ！ ー動きの美を感じようー 小3 つ （6時間）	(1)ア (2)ア	(1)ア		目の前で起きる一瞬の光景を自分の感性で彫刻や絵画で表現する。驚き・感動・ユーモアなどの感性を美的に捉える。モチーフは人物・物・出来事・残せない形など自分で決定し、追求する。 【3(7)】
	看板づくりプロジェクト ー地域の素材を生かしてー 小4 描 つ （4時間）	(1)イ		社会連帯の 鏡	対象者へのインタビューや、設置場所の調査を通して、似合う看板づくりの構想を練る。地域ならではの素材を制作の材料として使い、地域貢献について学ぶ。 【3(4)(5)】
2 学期 （13 時間）	ひとコマ伝達に挑戦 ーひと目で伝える感情ー 小6 描 （3時間）	(1)ア (2)ア		個性や立場 の尊重	ひと目で感情が伝わるひとコマ漫画を描く。視覚伝達デザインについて学び、遊び心やユーモアを大切に、形や色彩を効果的に扱い、自分で設定したテーマをデザインする。 【3(5)】
	1枚の板から〇〇が誕生！ ー木工作品の魅力ー 小4～小6 つ （8時間）	(1)イ (2)ア			自分のコンセプトを大切に、作品化に向けた構想を練り、自分の手で物をつくりあげる楽しさを味わう。作品をつくる過程の中から、木肌の美しさや風合いなど、木の魅力を探る。 【3(11)】
	国を超えた魅力に迫る ー浮世絵と印象派ー 小5 （2時間）		(1)ア イ		江戸時代の庶民生活から生まれた浮世絵と、浮世絵の影響を受けたヨーロッパの印象派の作品とを比較しながら鑑賞する。日本が世界に影響を与えた芸術性の高さに気づき、日本文化に誇りをもつ。 【3(3)(10)】
3 学期 （10 時間）	いいね！日本の暮らし ー日本の伝統色ー 小6 （2時間）		(1)イ	伝統の継承 と文化の創 造	色彩豊かな自然、祭りや四季折々の行事を色彩で楽しむ日本の文化を美術の視点で学ぶ。伝統色について調べ、色彩がもたらす感情や影響について自分の価値意識をもって、互いに批評し合う。 【3(2)(5)】
	自分を見つめて ー自画像への挑戦ー 小6 描 （5時間）	(1)ア (2)ア	(1)ア		中学2年生の今の自分とじっくりと向き合うための自画像を描く。コンテの技法を研究し、「描く」「消す」の繰り返しの中で生まれる表現を楽しむ。試行錯誤しながら画面が変化していく面白さを味わう。 【3(1)(10)】
	この地に生きるアート ー空間を変えるー 小5 描 つ （3時間）	(1)イ	(1)イ		人々が集う公共・公有の場（公園等）を調べ、コミュニケーションが生まれる美術について考える。グループで考えたデザインをコンペ方式でわかりやすくプレゼンテーションする。 【3(4)(8)(9)】

・【 】については、「第1 3 指導計画作成に当たっての留意すべき事項」の項目を参照

指導事項及び内容の取扱い	〔共通事項〕例【3(6)】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・墨の性質を生かした技法を習得する。<span style="float: right;">表2ア(ア)</span></li> <li>・種類の違う用紙を選択し工夫する。<span style="float: right;">表1ア(ア)</span></li> <li>・日本と中国の水墨画を比較し、それぞれのよさを味わう。<span style="float: right;">鑑1イ(イ)</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(オ)余白を意識して形を捉えること</li> <li>イ(ア)技法や空間から全体のイメージを捉えること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一瞬の光景や姿をたくさんあげる。<span style="float: right;">表1ア(ア)</span></li> <li>・空間、大小、リズムなど、形のない周りの空間を意識するための視点をつかむ。<span style="float: right;">鑑1ア(ア)</span></li> <li>・地域のスポーツ施設や仕事をする人など、動きを捉える訪問スケッチを行う。<span style="float: right;">表2ア(ア)</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(ウ)形のもつ性質や色彩の感情を捉えること</li> <li>イ(ア)見る角度により、変わる印象を捉えること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・店の雰囲気や聞き取りから自分なりのイメージを捉え、伝達を考えた構想を練る。<span style="float: right;">表1イ(ウ)</span></li> <li>・店のイメージに合う素材を探し、工夫して表す。<span style="float: right;">表1イ(ア)</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(イ)素材の性質や質感を捉えること</li> <li>イ(ア)造形的な特徴を基に、全体のイメージを捉えること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら漫画の主題を生みだし、構想を練る。<span style="float: right;">表1ア(ア)</span></li> <li>・「びっくり」「ショック!」「やった!」等の感情を、形や色彩を生かして表す。<span style="float: right;">表2ア(ア)</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(エ)感情を形や色彩に置き換えて捉えること</li> <li>イ(ア)形や色彩を基に、伝わりやすいイメージを捉えること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のテーマを追求するための、素材や用具を効果的に扱う技能を習得する。<span style="float: right;">表2ア(ア)</span></li> <li>・テーマは「生活に潤いをもたせるもの」など、自分のつくりたいものが幅広く設定できるよう、自由度を高くする。<span style="float: right;">表1イ(ウ)</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(ア)木の色味や木目模様など、素材がもつ個性を捉えること</li> <li>イ(ア)造形的な特徴を基に、全体のイメージを捉えること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作者の考えや表現方法を学ぶ。<span style="float: right;">鑑1ア(ア)</span></li> <li>・日本と諸外国の作品鑑賞を通して、相互の魅力を感じ取る。<span style="float: right;">鑑1イ(イ)</span></li> <li>・理科(科学)や社会(歴史)の教員と連携し、作品を多角的に理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(ウ)色のもつ感情や性質を捉えること</li> <li>イ(イ)作風や様式など文化的な視点で捉えること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の伝統色を味わい、色彩についての見方を深める。<span style="float: right;">鑑1イ(ア)</span></li> <li>・調べたことを話し合い、日本の色彩文化について、深く学ぶ合う。<span style="float: right;">鑑1イ(イ)</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(ア)色味や明るさ、鮮やかさを捉えること</li> <li>イ(イ)色彩を文化的な視点で捉えること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテと練り消しゴムの特性を生かし、作者の意図に応じて表現を工夫する。<span style="float: right;">表2ア(ア)</span></li> <li>・自分を見つめることにコンプレックスをもつ生徒については、状況に合わせて配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(オ)余白や立体感、量感などを捉えること</li> <li>イ(ア)構図や技法からイメージを捉えること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作家の作品例を紹介し考え方を知る。<span style="float: right;">鑑1イ(ア)</span></li> <li>・空間のイメージを変えるデザインについて学ぶ。<span style="float: right;">表1イ(ウ)</span></li> <li>・学校公開等で地域の方々にデザインを発表し、美術を通してコミュニケーションを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(オ)形・色彩・光から感じる印象を捉えること</li> <li>イ(ア)変化した空間から全体のイメージを捉えること</li> </ul>

【第3学年】(総授業数 35 時間)

小 小学校との関連 描 描く活動 つ つくる活動

学期	題材名 (時間)	領域・項目・指導内容			題材について
		A表現	B鑑賞	道徳	
1 学期 (12 時間)	祈りの造形 — 仏像に込められた思い— (1 時間)		(1)ア	我が国の 伝統と文 化の尊重	表情や動勢、ポーズのもつ意味、色彩などから仏像に込められた思いを学び、理解を深め、自分の価値意識をもつ。 【3(5)】
	〇〇のわたし — 過去・未来・現在— 小6 描 つ (8 時間)	(1)ア (2)ア イ		希望と勇 気、克己 と強い意 志	自分自身とじっくり向き合いよく観察し、特徴を捉えたり、気に入っている姿を強調したりして自分を表現する。色彩の工夫や各種技法、表現に合った材料を選び制作する。 【3(2)(7)】
	わたしの道 — 道はただの風景ではない— 小5 描 (3 時間)	(1)ア イ (2)ア イ	(1)イ	相互理解 寛容	自分が進む道をイメージして、今までの時間や記憶をたどり、わき上がる思いを絵に表す。構図や遠近感、光や色彩などがどのような働きをするのかを制作を通して考える。 【3(7)(8)】
2 学期 (13 時間)	心のうつわ — 土と炎の芸術・陶芸— 小6 つ (4 時間)	(1)ア イ (2)ア イ	(1)イ		心とイメージや形を単純化したり、強調したりしながら、塊や量で表す。陶土の感触を味わいながら制作する。周囲の空間を生かし、自分のイメージを豊かに立体で表現をする。 【3(1)(2)】
	ルネサンスの美術 小6 (1 時間)		(1)ア	感動、 畏敬の念	ルネサンスの美術について鑑賞することにより、作品の意味、作者の心情や意図を考えながら、ルネサンスの芸術や背景などの理解を深める。 【3(3)(8)】
	心地よいくらし — 未来のデザイン— 小6 描 つ (7 時間)	(1)ア (2)イ	(1)ア		使う人の気持ちや使う場所のことを考え、材料の特性を生かしながら、生活や空間を楽しく彩るインテリアや小物をデザインする。材料の特性を生かして制作し、実際に使用してそのよさを味わう。 【3(6)(11)】
	ゲルニカ — ピカソと私— 小6 (1 時間)		(1)ア	国際理解 国際貢献	作品の印象を直感的に捉え、それを形容詞やオノマトベ、比喩などを使い言葉に表す。形や色彩などから受ける共通の感じ方を考える。作者の思いや社会的・歴史的背景を知り、作品の本質に迫る。 【3(3)(8)(9)】
3 学期 (10 時間)	光と影であそぶ — わたしのあかり— 小6 描 つ (6 時間)	(1)ア (2)ア	(1)イ		光や影の特性を生かした作品を鑑賞し、光の色や影の形からそのよさや美しさを話し合う。光や影の効果で、生活空間を楽しく美しい世界につくり変えることを考える。見る人に感動や癒やしを与える工夫をする。 【3(3)(8)(9)】
	技と心を伝える — 日本の伝統工芸— 小6 描 つ (3 時間)	(1)ア イ (2)ア イ	(1)イ	我が国の 伝統文化 の尊重	日本の美しい伝統工芸品に込められた心や、優れた作者の技巧について考える。伝統工芸のデザインや技術から学び、表現に取り組む。 【3(8)(9)(10)】
	中学校美術、最後の時間に — 自画像の鑑賞— 小6 (1 時間)		(1)イ	よりよく 生きる喜 び	描かれている自画像と自分を重ねて鑑賞し、3年間の中学校生活を振り返る。生きていく上で体験し、感じ、考えたことを表現につなげていく。表現することとは何かについて考える。 【3(4)(10)】

・【 】については、「第1 3 指導計画作成に当たっての留意すべき事項」の項目を参照

指導事項及び内容の取扱い	〔共通事項〕例【3(6)】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・仏像の造形的なよさや美しさの観点で鑑賞する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">鑑1ア(ア)</span></li> <li>・仏像の種類と、時代や作者によって特徴が異なることに興味をもつ。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">鑑1ア(ア)</span></li> </ul>	<p>ア(オ)量感や動勢を捉え造形要素との関連を考えること イ(イ)造形的な特徴などを基に、作風や様式などの文化的な視点で捉えること</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の姿を見つめて考えたことなどを基に、今の自分の気持ちや将来の夢を表すなど、表現の構想を練る。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">表1ア(ア)</span></li> <li>・絵や立体など表現方法を工夫する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">表1ア(ア)(イ)</span></li> <li>・作品に託した思いや意図、表現の工夫について話し合う。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">鑑1ア(ア)</span></li> </ul>	<p>ア(ウ)形や色彩、材料、光などから感じる優しさや楽しさ、寂しさなどを捉えること イ(ア)造形的な特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして全体のイメージを捉えること</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・奥行き表現の工夫を鑑賞し、作品の構想を練る。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">表1ア(ア)鑑1ア(ア)</span></li> <li>・形や色彩を強調し、作品に込めた思いを強く表現する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">表1(ア)(イ)</span></li> <li>・作者の表現の意図と工夫を感じ取る。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">鑑1ア(ア)</span></li> </ul>	<p>ア(オ)余白や空間の効果、立体感や遠近感を捉えること イ(ア)造形的な特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして全体のイメージを捉えること</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体による塊や動きの表現に関心をもつ。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">表1ア(ア)</span></li> <li>・塊から感じる存在感や、形から感じる動きなどを考え、表現の構想を練る。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">表1ア(ア)(イ)</span></li> <li>・材料や用具の特性を生かしながら、自分の表現意図に合う方法を工夫して表す。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">表2ア(ア)(イ)</span></li> </ul>	<p>ア(オ)空間の効果、量感や動勢を捉えること イ(ア)造形的な特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして全体のイメージを捉えること</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品のもつよさや美しさ、意味や作者の意図などを感じ取り、ルネサンスの芸術や時代背景について関心を持ち、美術文化について理解を深める。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">鑑2ア(ア)(イ)</span></li> </ul>	<p>ア(エ)形や色彩などの組合せによる構成の美しさを捉えること イ(イ)造形的な特徴などを基に、作風や様式などの文化的な視点で捉えること</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・心地よい美しさや生活を楽しめるデザインの構想を練る。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">表2イ(ア)</span></li> <li>・材料や用具の使い方を考え、創意工夫して表す。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">表2ア(ア)(イ)</span></li> </ul>	<p>ア(ア)色彩の色味や明るさ、鮮やかさを捉えること イ(ア)造形的な特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えること</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品から時代背景や作者の心情について読み解く。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">鑑1イ(イ)</span></li> <li>・形や色彩などから受ける共通の感じ方に気付く。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">鑑1ア(ア)</span></li> </ul>	<p>ア(ウ)形や色彩、材料、光などから感じる優しさや楽しさ、寂しさなどを捉えること イ(イ)造形的な特徴などを基に、作風や様式などの文化的な視点で捉えること</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・光と影の特性を生かした表現をする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">表1イ(ア)(ウ)</span></li> <li>・空間の使い方や効果的な演出、意外性を考えて構想する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">表2ア(イ)</span></li> <li>・光の色や影の形が生み出す美しさについて話し合う。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">鑑1ア(ア)</span></li> </ul>	<p>ア(ウ)形や色彩、材料、光などから感じる優しさや楽しさ、寂しさなどを捉えること イ(ア)造形的な特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えること</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の伝統工芸品の造形美を味わい、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を深める。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">表1イ(イ)</span></li> <li>・材料の特性を生かし、自分の思いを形にする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">表2ア(イ)</span></li> </ul>	<p>ア(イ)材料の性質や質感を捉えること イ(イ)造形的な特徴などを基に、作風や様式などの文化的な視点で捉えること</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性や想像力を働かせて、造形的な意味を考えながら作者の心情や意図について関心をもつ。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">鑑1ア(ア)</span></li> <li>・生命、社会の課題、他者との共生などの様々な問題について考える。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">鑑1イ(イ)</span></li> <li>・中学校3年間の美術の学びを振り返る。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">鑑1イ(ア)</span></li> </ul>	<p>ア(ウ)形や色彩、材料、光などから感じる優しさや楽しさ、寂しさなどを捉えること イ(イ)造形的な特徴などを基に、作風や様式などの文化的な視点で捉えること</p>

### 3 指導計画作成上の配慮事項等

小学校		中学校	
1 指導 計 画 の 作 成	目標及び内容の十分な理解、児童の発達や特性、実態に応じた2学年間の見通し、中学校美術科などを視野に計画的・継続的な指導計画を作成すること	1 指 導 計 画 の 作 成	目標及び内容の把握、学校教育目標との関連、学習内容の確実な定着、生徒の個性を生かして取り組む学習、一人一人の可能性を伸ばすことができるように指導計画を作成すること
	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善		(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
	(2)「A表現」及び「B鑑賞」を関連付けた指導と独立した鑑賞指導		(2)表現と鑑賞の指導の関連
	(3)〔共通事項〕表現及び鑑賞の、全ての学習において配慮 〔共通事項〕ア「知識、イ「思考力、判断力、表現力等」 図画工作科と美術科において一貫して指導		(3)〔共通事項〕表現及び鑑賞の各活動における適切な位置付け 小学校図画工作科を踏まえた指導の配慮
	(4)「A表現」の(1)、(2)の関連と指導に相当する授業時数		(4)「A表現」(1)発想や構想のア及びイと(2)技能は、原則として関連付けて指導し、描く活動とつくる活動のいずれも経験させること ○第1学年は、幅広く資質・能力を定着させ、特定の表現分野の活動に偏らず、描く活動、つくる活動をいずれも扱うこと ○第2、3学年は、第1学年で身に付けた資質・能力をより高めること 内容の選択し可 2学年間で全ての事項を指導すること
	(5)共同してつくりだす活動、一人一人が共に活動する実感		
	(6)作品などの特質を踏まえた「B鑑賞」の指導		
	(7)低学年における他教科等や幼児教育との関連 生活科を中心に合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定		
	(8)障害のある児童などへの指導、計画的かつ組織的な工夫		(5)「B鑑賞」の授業時数の確保
(9)図画工作科の特質に応じた道徳教育と道徳科などとの関連	(6)障害のある生徒などへの配慮：計画的及び組織的に、一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援を工夫すること		
2 内 容 の 取 扱 い と 指 導	(1)児童の個性を生かした内容の取扱い 児童が経験を基に表現方法や材料、用具などを選ぶことができるように、幅をもたせた学習活動や表現方法を設定すること	2 内 容 の 取 扱 い と 指 導	(7)美術科の特質に応じた道徳教育と道徳科との関連
	(2)〔共通事項〕のアとイの関わり 「A表現」「B鑑賞」の指導を通し児童が気付くようにすること		(1)実感を伴いながら理解する〔共通事項〕の指導 造形を豊かに捉える多様な視点をもつこと よさや美しさ等に気付き、新しい意味や価値を発見すること ○〔共通事項〕ア(ア)色彩の明るさ、鮮やかさ(イ)材料の性質や質感(ロ)形や色彩、材料、光などが感情にもたらす効果(ハ)構成の美しさ(ニ)余白や空間の効果、立体感や遠近感、量感や動勢など ○〔共通事項〕イ(イ)造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えること(ロ)造形的な特徴などを基に、作風や様式などの文化的な視点で捉えること
	(3)〔共通事項〕アの指導：その後の学年で繰り返し取り上げること ○低学年は、いろいろな形や色、触った感じなど ○中学年は、形、色、それらの組合せの感じ、色の明るさなど ○高学年は、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなど		(2)夢や目標と自己表現、自発性や主体性、自己教育力等の育成
	(4)児童の思いを大切に「A表現」の指導 自分のよさや可能性を見いだすようにする指導		(3)「A表現」表現に関する資質・能力を育む表現形式や技法の指導 生徒が表現意図に応じて表現形式を選択し創意工夫する態度 一人一人の希望や考えを大切に、よさを発揮する柔軟な指導 ○スケッチの活用 ○映像メディアの活用 ○多様な表現方法の活用 ○地域の材料や題材などの取り上げ方
	(5)互いのよさや個性などを認め、尊重し合うようにする指導		(4)他者と学び合い、尊重し合う態度の育成による美術の創造活動への意欲と自己肯定感の高まり
	(6)材料や用具の取扱い ○低学年は、土、粘土、紙、クレヨン、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類など身近で扱いやすいもの ○中学年は、木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなど ○高学年は、針金、糸のこぎりなど		(5)一人一人が持ち味を生かし、共同で行う創造活動の経験
	(7)版に表す経験や土を焼成して表す経験		(6)「B鑑賞」国内外の児童生徒作品や文化遺産を取り上げる題材 美術館等との連携や活用による多様な鑑賞体験の設定 総合的な学習の時間や、学校行事や地域の行事との関連
	(8)地域の美術館などの利用や連携による鑑賞の充実		(7)創造性を尊重する態度の形成と知的財産権や肖像権の役割
	(9)言語活動の充実 〔共通事項〕を視点として、感じたことや思ったこと、考えたことなどを、話したり聞いたり話し合ったりする、言葉で整理するなどの言語活動を充実すること		
	(10)必要性を検討した情報機器の利用		
	(11)創造性を大切にする態度、文化の継承や発展、創造への理解につながる素地の育成		
3 安 全	○安全指導：材料、用具、活動場所の安全指導、事前点検など、事故防止に留意	3 安 全	○安全指導：特に刃物類、塗料、器具などの使い方の指導と保管、活動場所における安全指導などの徹底
4 環 境	○学校としての鑑賞の環境づくり ・校内の適切な場所に作品を展示し、平素において鑑賞できるように配慮 ・地域や学校の実態に応じ、校外に展示する機会の設定	4 環 境	○学校としての鑑賞の環境づくり ・学校図書館等の鑑賞用図書や映像資料などの活用 ・校内の適切な場所への作品展示とともに、校外への展示による地域との連携や交流の機会の設定

#### 4 「A表現」の指導計画作成例

##### (1) 作成例Ⅰ

※該当学年において、○印のある活動は必ず扱うこと。

学年	A表現		(1)イと(2)	
	(1)アと(2)		(1)イと(2)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第1学年	○	○	○	○
第2学年	○			○
第3学年		○	○	

##### (2) 作成例Ⅱ (第1学年は同じ)

第2学年		○	○	
第3学年	○			○

#### 5 題材及び1単位時間の指導計画作成例

(1) 題材名「○○○○」 ※生徒自らが主題を生み出せるような、魅力的な題材名を工夫する。

- (2) 題材の目標
- ・学習指導要領で示された学年の目標及び内容を踏まえ、生徒の実態などを基に設定する。
  - ・扱う題材において、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の相互の関連を踏まえた内容を一文で簡潔にまとめる。
  - ・生徒の立場で記述する。

(3) 題材の指導計画 (○時間扱い) ※「第1 3 指導計画作成に当たっての留意すべき事項」との関連を考慮

学習の進め方	留意事項
1 課題の把握と発想・構想 (○時間) ・対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたことなどを表現することに関心をもち、自ら主題を生み出す。 ・夢や想像したことなどを表現することに関心をもち、主体的に主題を生み出す。 ・主題を基に、構想を練る。	・教科書の活用や参考作品などを鑑賞し、作者の主題、意図と表現の工夫などについて意見を述べさせるなど表現と鑑賞の関連を図る。 ・発想を広げるために〔共通事項〕を視点に考えさせる。 【3(6)】
2 制作 (○時間) ・扱う描画材等や材料を効果的に活用し、構想を基に自分の表現方法を工夫して、主題が表現できるように制作する。 ・構想を深める。	・主体的な学びの視点として、構想を基に自分の表現意図に合う表現方法を工夫させる。 【3(2)】 ・深い学びの視点として、構想に改善を加え、表現を深めさせる。 【3(2)】 ・小学校での既習の学習も含め、これまでに学習してきた技能等を活用させる。
3 鑑賞 (まとめ) ○時間 ・お互いの完成作品を鑑賞し、作者の思いや意図、創造的な表現の工夫などを感じ取る。	・ワークシート等を活用し、自分の作品についての説明を記述させる。 ・お互いの完成作品を鑑賞し、批評し合わせる。

(4) 1単位時間 (50分) の指導計画 (本時○/○時間)

- ・本時の目標：この時間を通して、育成したい資質・能力を明確にした目標を立てる。
- ・展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点	評価の手立て【評価方法等】
導入 ○分	[生徒の立場で記述] ・学習活動は「活動の概要やねらい→具体的な活動」の順に、生徒の視点で記述する。	[指導者の立場で記述] ・活動時間を確保するために、導入は工夫して短時間でを行う。 ・ねらいにせまる目標提示を行う。	[指導者の立場で記述] ・本時の目標に沿って、観点別に評価規準を記入する。 ・評価方法は【発言・観察・対話・表現・作品・記述等】によって示す。
展開 ○分	・一人一人の生徒が、何をめあてに活動すればよいのかをつかめるように具体的に記述する。	・留意点、教師の指示等、実際に指導する際の流れが分かるように記述する。 ・指導上の留意点は、授業づくりの中心になる点でもあるのでよく考えて記述する。	・「努力を要する」と判断される生徒への手立てを明記する。 ・50分の授業で評価可能な計画になるようにする。
整理 ○分	・ねらいに沿った、振り返りをする。 ・学習を通して学んだことを、次時の活動や課題解決につなげる。	・他者との対話や共同する活動等も適宜取り入れる。 ・〔共通事項〕に係る内容がわかるように記述する。	